

スペシャルオリンピックス(SO)は、知的発達障害のある人たちに様々なスポーツトレーニングとその成果の発表の場である競技会を、年間を通じ提供している国際的なスポーツ組織です。SOでは、これらのスポーツ活動に参加する知的発達障害のある人たちをアスリートと呼び、多くのボランティアやアスリートのファミリーと一緒に活動を支えています。現在では全国全ての都道府県に普及していて、富山でも現在約140名のアスリート会員が9つの競技種目に取り組んでいます。



## 今季のエッセイ

### 2010年第5回夏季ナショナルゲーム・大阪を終えて

多少の肌寒さを感じた11月5日の早朝、私たちSON・富山の選手団は大阪に向け富山駅を出発しました。今回は、前回のNG熊本での参加種目に2種目を加え、水泳、陸上、ボウリング、卓球、バスケットボールの5種目に、17人のアスリートを含む30人の選手団になりました。また、全ての都道府県に地区組織ができた最初の大会で、選手団の総数は1,500人を超える規模になりました。

アスリートは今回の大会を楽しみにしていたようで、早朝の出発にもかかわらず列車内では元気いっぱい。開会式のアトラクションでも、地元大学生によるアクロバティックなチアリーディングや、ゲストの「あやや」こと松浦亜弥さんが歌い上げた「きずな」に歓声を上げていました。翌日からそれぞれの会場でさわやかに競技に臨み、日頃のトレーニングでの練習成果を十分に発揮していました。そして、全員が実に

### 団長(SP委員長) 金山 彰

晴ればれとした満面の笑みで表彰台に立ちました。

わたし自身は、今回は団長としての参加でしたのでアスリートと直接かかわる場面は思ったほどには多くはなく、少し余裕があったといえます。また、一ヶ月前に富山でブロック大会を主催した経験から、今までとは若干違う感想をもつことができました。それは、大会を支えてくださっている多くのボランティアやスタッフの皆さんの力の大きさを実感できたことです。そのうえで、その気持ちを素直に表し、参加している全ての人たちとともに活動を楽しむことこそが最も重要なことだと気がついたことです。

今後はこの貴重な体験を生かし、日頃のトレーニングはもちろん、あらゆる場面で感謝の気持ちを自然に表現し、その感謝の気持ちをSOの活動に関わる全ての人たちに伝えることが、自分に課せられた使命だと思い、帰路につきました。



# 夏季ナショナルゲーム・大阪

## 陸上

陸上競技は、あの懐かしい「太陽の塔」がある万博記念競技場で開催され、5人のアスリートが100m走と4×100mリレーに出場しました。清々しい青空の下、鮮やかなオレンジ色のユニフォーム姿がくっきりと映え、一人ひとりが輝いて見えました。緊張気味にスタートラインに立つ様子、精一杯の走り、全力で

走りぬいた後のホッとした表情、表彰台でのとびきりの笑顔、チームメイトとの和気あいあいのひと時...どのシーンも感動がいっぱいでした。惜しくもメダルに手が届かず悔しい思いをしたアスリートも今後一層のチャレンジを続けてくれることでしょう。

(陸上応援団、上文佐乃)



## ボウリング

「大きな大会に行ける」と、わくわくしながら大阪へ向かいました。なま西田ひかる！ 生あやや!! 「やっぱり規模が違うなー」と感動しながらNGが始まりました。大会中は、いろいろな地区のアスリートやコーチと話ができました。アスリートもNGを通して友達が増えたのではないのでしょうか。競技が終わり、彼らが誇らしげにメダルを見せてくれたのがとても

印象的でした。最初は、「ちゃんとアスリートをサポートできるかな？」と不安もありましたが、このときの表情をみてホッとしました。3日間いろいろなことをアスリートと共有できたことを嬉しく思います。アスリートの素直さ、一生懸命さに感動しました

(ボウリングコーチ、平崎美幸)



## 卓球

今回、貴大がアスリートとして卓球シングルスで初めてNGに出場し、母も応援団で初参加。赤と黒のユニフォームでキメた富山チームはとても目立ってカッコよく、息子の結果は見事、金メダルで驚くやら嬉しいやら。チーム全員を応援したいけれど、目は2つしかなく大忙しの観戦でした。試合中のアリーナには選手と審判しか入れません。

S0に参加する前は、呼んでも振り向かず、目も合わなかった息子ですが、試合中、選手団席のコーチと時折、目で会話している様子分かり、わが子の成長が、ただただ嬉しかったです。人は、素晴らしい仲間に出会える機会を得て、どんどん変わっていきのだと改めて思いました。

(卓球応援団、福島朝子)





## バスケットボール

「親と離れて、選手団としての2泊3日」という魅力に惹かれ、バスケでは息子・岳志がただ一人NGに参加しました。個人競技のシュート種目は、トレーニングでは練習していない高さで挑むことになったのですが、小学生の参加が息子だけだったため、コーチの方が練習してくださり、なんと、両日ともシュートを決めることができ感激しました。試合後に息子がコ

ーチやボランティアに向けた笑顔、表彰台で首にかけてもらった銀メダル、アスリート交流会の写真、どれもこれも本当に楽しそうでした。また、ファミリーの皆さんとの交流を含め、私たちファミリーも語り尽くせないくらいの感動をもらい、大いに楽しむことができた大会でした。NGに参加して本当によかったと思います。（バスケットボール応援団、大坪恭子）



## 水泳

「AKB48、前田敦子、知っていますか」これが唯一の水泳参加アスリート村下陽一郎君の挨拶だ(おじさんにはちと難しい)。宿舎で同じ部屋だった山形選手団とは、AKBと仮面ライダーで話が弾む。宿舎の外国人ボランティアのアントさんも「アツコ？ 見テオキマース」だって。勿論、水泳会場でも連発。彼の周りにボランティアが集まり、和やかな雰囲気漂う。彼はその中の女性に、自分に配られたアクエリアスをブ

レゼント(やるじゃないか)。彼は、あの大きな体で犬が怖いという。自分の言葉で相手を傷つけてないか心配する心優しいところもある。大阪での3日間は楽しかった。念願のたこ焼きを食べることもできた(彼から1個分けてもらった)。彼の胸には銅メダルが輝く。たくさんの仲間と交流した陽一郎君に大きな声で「アツパレ！」と言いたい。（水泳コーチ、宇於崎俊陽）



## SP委員会より

2010年度SON東海・北信越ブロックSP委員長会議が、静岡県伊豆の国市で開催されました。その会議の席上、今後のブロック内での競技会や大会の実施についていろいろ意見交換しました。その結果、多くの種目を同時に1地区で開催することは困難だけれども、開催方法を工夫しながら2~3の種目で実施し、定期的に継続していこうということになりました。また、各地

区での取り組みや悩みなどもいろいろ話題となり、地区共通の問題として、アスリートの数に対しボランティアの絶対数の不足が取り上げられました。

SON・富山としても、新しい種目へのチャレンジをはじめ、年間を通じいろいろな機会により多くのボランティアに関わってもらえるよう呼びかけていきます。今後も皆さまのご協力をお願いします。

## アスリート委員会より

ブロック大会では中山真美さんが開閉会式の司会を担当し、また、アスリート委員をはじめ多くのアスリートが他地区のアスリートと積極的に交流するな

ど、個人レベルでの活躍もありました。来年度もアスリート委員会を定期的に開催します。アスリート委員会への参加とサポーターも募集しています。

## ファミリーがボランティアするとき

皆さんの中で、「ボランティア」って、どんなイメージですか？ この秋、ブロック大会の競技会場やHAP会場、交流会などで、一般公募の多くの人たちがいきいきとした表情で楽しみながらボランティアしていました。

一方、ファミリーの皆さんには、別の意味でのボランティアについて考えてもらいたいと思います。それは、SON・富山の活動を内側から支える「ファミリーボランティア」についてです。大きな大会やイベントにスポットで関わることだけがボランティアではありません。スポーツプログラムの中でコーチとして活動するファミリー、ホームページや会報の取材をして

くれるファミリー、はたまた運営委員となって会の中心的な活動を引っ張るファミリー。これら一人ひとりのボランティアファミリーは、一般のファミリーと同じで、なにも「選ばれたファミリー」ではありません。

「ボランティアが足りないよね」なんて言っているあなたこそ、ヒトゴトではなく、ご自身がボランティアファミリーになって活動してください。ファミリーは、SON・富山の活動に参加「させていただいている」ではありませんよ。自ら進んで関わってくれる意欲のあるファミリーこそが「SON・富山のファミリー」と言えるのです。

<賛助金・寄付金をお寄せ下さった皆様(2010年9月1日～2010年12月7日)>

敬称略

石井 郁子	上 隆義	腰田 恵子	塚本 愛未	萩中 祐子	三松 隆之	山岸 明子
石井 純	上 文佐乃	佐伯 秀彦	塚本 裕香子	八幡 英樹	宮下 敬	山崎 政行
井上 訓	上原 公子	佐々木 一成	辻 龍之介	林 慎二	宮下 陸也	山崎 麻住実
大角 拓海	上原 恵	澤田 一将	寺畑 雅英	百塚 由実子	宮野 光正	山本 憲文
大角 浩樹	上原 悠太	篠田 健弘	鳥内 禎久	本間 一正	宮野 誠二	横井 一成
大田 光顯	北川 英一	高畑 一樹	中山 正之	前田 恵佑	村上 朝子	吉藤 国之
岡部 敬	北川 登貴	高畑 武志	中山 真美	前田 万里子	村下 勇	渡辺 久子
小川 隆	北川 文子	竹田 慶正	奈辺 明香里	松田 智至	村下 陽一郎	渡辺 友里
荻生 明美	下条 由季子	田村 進	奈辺 賢治	三上 恵美子	村下 禮子	
金山 彰	下条 竜一	田村 宏道	奈辺 晴美	三上 裕之	毛利 信幸	
あかりハウス	(株)梅かま		富士ゼロックス北陸(株)端数倶楽部			

ありがとうございました。

## 賛助金・寄付金振込先

スペシャルオリンピックス日本・富山  
(日本は、「ニッポン」としてください。)  
北陸銀行本店(店番 101)、普通口座 5308370  
ゆうちょ銀行 00720=0=38833

## 賛助金

<個人> 一口 3,000円  
<企業・団体> 一口 10,000円

お問い合わせは、SON・富山事務局あてメールもしくはファックスをお願いします。

私たち富士ゼロックス北陸(株)は、  
スペシャルオリンピックス日本・富山の活動を応援しています。

## Kids' ISO 14000 プログラム

Kids' ISO14000プログラムは、家庭の身近な省エネ活動を通じ、自ら進んで環境保全活動に取り組める子供を育成することが狙いです。

私たち富士ゼロックス北陸は、この趣旨に賛同し、以下の活動を行っています。

◎ 地域から信頼され、社会に対する責任の一端を担うために、  
近地域の小学校におけるプログラム実施をサポートしています。

◎ 『Kids' ISO14000プログラム』活動をサポートする  
ボランティアスタッフや採点サポーターを育成しています。

FUJI XEROX 



富士ゼロックス北陸株式会社

富山事業所/富山市新桜町 5-3

TEL: 076-431-2121